

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500328		
法人名	株式会社笑顔いちばん		
事業所名	グループホーム笑顔いちばん各務原		
所在地	岐阜県各務原市蘇原新栄町3-6		
自己評価作成日	令和2年1月30日	評価結果市町村受理日	令和2年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JievosvoCd=2190500328-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和2年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの思いを尊重して生活して頂いています。日々どうすれば笑顔で生活がして頂けるか、信頼関係作りを行う事、利用者とお話を多くすることを意識しています。また、健康寿命を延ばすために毎日の運動、少しでも体を動かすことを意識し、昼は起きている、夜は寝ると一日のリズムを作り、落ち着いて元気のあるゆったりと安心した生活が出来るよう工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの玄関には、家族や訪問者に分かり易いよう、職員の名前付き顔写真を掲示し、円滑にコミュニケーションが図れるよう工夫している。広く明るい共用スペースは掃除が行き届き、清潔感がある。体操や歩行訓練などの運動に加え、洗濯物を干す、畳むなど、利用者の身体機能維持とメリハリのある日常生活の援助に力を入れている。利用者の思いや意向の把握に努めながら、本人らしい暮らし方を尊重したサービス提供に努め、「笑顔づくりは街づくり」の理念の下、地域との交流を図っている。また、協力医・訪問看護とも密に連携しながら、看取りケアにも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自社理念の「笑顔づくりは街づくり」をめざしまずは入居者様の笑顔、ご家族様の笑顔をつくる事を意識して業務をしています。	理念と社訓を、玄関の目につきやすい所に掲示し、会議や社内研修、勉強会等で理念の意義を確認している。利用者と家族の「笑顔」を常に意識し、職員間で声をかけ合いながら、利用者主体のケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	清掃活動の参加を行い、地域の方との交流に努めています。夏祭りや、散歩等、地域の方と触れ合える時間を作る様努めています。	自治会と連携を図り、地域の清掃活動に職員が参加している。地域の祭りには神輿が立ち寄り、事業所の夏祭りには地域の人を招待するなど、交流の機会となっている。利用者の散歩時や買い物に行った際には、住民と挨拶を交わし地域の一員として生活している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まずはご家族様に認知症の理解をして頂ける様に話し合い等を行い、見学などにみえた方等にも理解できるように説明等させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で参加して頂いた方に施設の取り組み等を報告をし、アドバイスを頂いてサービスの向上に活かすように努めています。	運営推進会議は年3回、行政、自治会長、民生委員、家族等が参加して開催している。事業所の状況を説明し、ヒヤリハットや事故等を報告し、課題点について意見交換を行っている。会議の内容を全職員に周知し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の担当者と連絡を取ったり、運営推進会議に参加して頂いたり、協力関係を築くよう努めています。また病院の相談員さん等と話をさせて頂き、連携を図っています。	行政の担当者とは電話などで日頃から連絡を密に取り、利用者の状況を報告したり、助言を得るなど協力関係を構築している。行政からの情報提供や助言は職員間で共有し、運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会、ミーティング等で話をし、拘束をしない、を実施しています。権利擁護の勉強会を定期的に行い、理解を深めています。	高齢者の権利擁護について、事例検討も含めて内部研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、日々のケアで、職員が無意識で行っている行為が、虐待や拘束につながる恐れはないか等、常に注意し合い、その都度、対応方法を検討している。	職員一人ひとりが、権利擁護及び身体拘束について正しく理解し、常に意識して取り組んでいる。今後も研修を重ね、事例から気づくことができるように、現在の取り組みの継続を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体状況の確認を各フロアで行い、傷の有無や、打撲痕等、共有を図っています。スピーチロック等にも注意し、入居者様の尊厳を害さないように努めています。		

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での勉強会を実施しています。事例検討、自施設内での事例検討をしながら必要性を学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、ご家族様に納得してもらえたか確認しながら契約を行っています。また加算等で料金等が変更になった場合や契約の変更があった場合は再度ご家族に説明を行い、同意をとっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見をお聞きし、意見をまとめ、反映し、取り組んでいます。変更した点などは運営推進会議などでご家族に報告して運営に反映しています。	運営推進会議や面会時、電話等で家族の意見を聞いている。また、年1回、法人全体で「家族満足度アンケート」を実施し、より良いサービスの提供に努めている。家族から、「本人の暮らしぶりについて、詳しい様子が知りたい」との意見があり、担当職員が便りにコメントを記載し、送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを毎月定期的に行い、運営状況や、職員の意見や提案を聞き取り、反映しています。またご家族へのアンケートも実施し、年度の方針に反映させています。	毎月のユニット会議、全体会議、社員会議があり、職員は必ずどれかに出席するようにしている。日頃から管理者やリーダーは、日常業務や個別面談で意見や提案を聴き、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を実施し、定期的に面談を行い個人の努力の把握に努めています。また職員に業務分担を行い、各自が向上心が持てるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に行い、職員がスキルアップが出来るように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の交流できる会に参加し、同業者と話ができる機会を作り、サービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面談を行い、本人様、ご家族様への聞き取りを行っています。入居後も逐一ご家族様への報告やご本人様の聞き取りを行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前面談を行い、聞き取りを行っています。入居後も逐一ご家族様への報告、不安に対するケアを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の入居と共に、ご家族様へ支援の説明を行っています。職員と話をしながら支援方法を確立しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様に役割を持って頂き、少しでも家事に参加できる取り組みを行っています。他者との会話が出来るよう、職員が間に入って繋がる様支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に通信でイベントのご案内等、一緒に参加して頂けるように努めています。施設に来所された時は利用者の様子を報告し家族の話しも聴いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人にお越し頂いたり、ご家族との時間を大切に頂ける様、外出、外泊を進めたりと声掛けをさせて頂き支援しています。	家族や友人等の訪問時には、再来の声かけをし、友人から電話があれば取り次ぐなど、馴染みの人との関係継続を支援している。家族との外出や外泊をする際には、利用者の最近の様子や状態を伝え、本人が望む馴染みの場所への外出も勧めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別支援、集団支援等、その方に合った方法で支援をしています。職員がご本人様に声をかけ、入居者様同士が関われる様に支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談があったときは誠意で応えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向を尊重できるよう職員本位にならないよう努めています。普段の行動や、しぐさからご本人様の状態の把握に努め、ご家族様にも協力をして頂き、支援しています。	職員は、利用者一人ひとりの思いや意向を把握し、申し送りノートで情報を共有しながら、ユニット会議で検討している。把握が困難な場合は、家族や関わりのある人からも聴き、利用者に寄り添いながら思いを推測し、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に聞き取りを行った後も現場の職員、ケアマネージャーを中心にご家族様から聞き取りを入居後も継続して行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通しての状態、不安時の状態など、対応方法を含め、日々の申し送りや、ミーティングで共有、実践を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントに基づき 現在の支援方法について検討し、ミーティングで話し合い、計画書を作成しています。	居間の一角に、利用者の日々の個別記録を記載する場所があり、職員は気づきがあれば、すぐに記録している。日々の記録内容をモニタリング時の情報として活かし、主治医、家族、関係者でアセスメントの充実を図っている。介護計画作成後には、利用者・家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議を開催し個別支援の情報共有や計画の見直しをしています。職員の気づき、違和感等を大切に話し合っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の立場に立ち、ご家族様と相談してニーズに対応しています。		

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族やご友人の面会を大切にし、利用者が暮らしを楽しめる様努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師よりご家族様に説明をして頂いたり、ご家族の要望を医師に相談したりと適切に医療を受けられる様努めています。	契約時に、かかりつけ医について説明し、本人・家族の意向を確認している。従前のかかりつけ医受診時には、利用者の健康状態を記載した文書を家族に渡し、受診結果を家族と共有している。緊急時には、協力医の助言を得て、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師、看護師（訪看）と情報を共有し、往診時に擦りあわせ、職員も一緒にご本人様と受診する様にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはフェイスシートを提出し、情報の提供やケースワーカーとの情報共有・相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における（看取り）指針に基づき契約時に説明し、同意を得たうえで支援を行う体制を取っています。その際も医師からも説明をして頂き、同意を取っています。利用者・家族・医療・施設というチームでケアに努めています。	契約時に重度化や終末期について説明し、利用者や家族の同意を得て、看取りの支援体制を整えている。状態変化があった場合は、医師や訪問看護師のアドバイスの下、利用者が穏やかな時間を過ごせるよう、家族の宿泊希望にも応じ、家族を含めたチームでの支援に取り組んでいる。	職員は、協力医や訪問看護師から、緊急時の対応方法や疾病について学んでいる。今後も、終末期に関する研修を重ね、さらにデス・カンファレンス等にも取り組み、充実した看取り支援の体制づくりに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や、事故発生に備えてマニュアルを作成し定期的に訓練を実施しています。事例検討を行い、適切に対応できるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路や自動通報装置等の使い方の確認を定期的な訓練で行っています。	消防署指導の下、年2回避難訓練を行い、利用者の避難誘導と消火器やAEDの使用方法を体験している。職員は、避難経路や自動通報装置等の使い方を確認している。備蓄については、現在、法人で必要量を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックに注意し、ご本人様の立場に立って言葉かけを行っています。ミーティング等でも気づいた事を共有しています。	職員は、常に利用者と目線を合わせて話すよう心掛け、声の大きさや表現方法なども、利用者の誇りを損ねないよう配慮している。また、無意識に、スピーチロックで行動を制限していないか、職員間で注意喚起をしている。入浴や排泄介助時は、特に羞恥心に配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるよう、声かけを行っています。ご本人様が行えない場合はご家族様を含めて考えるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務は職員の連携で行うよう、入居者様を第一に考えて行動する様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の選択や、整容等、ご本人様にお聞きしながら行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好み等をお聴きし、食事メニューに反映させたり、しています。女性入居者様を中心に役割を持って頂き、準備や片づけ等できるように支援しています。	献立は、利用者の好みを聞きながらも、協力医の助言を受けて、減塩を意識した食事を提供している。利用者も準備や後片付け等、できることを手伝っている。匂いや見た目でも利用者の食欲を促し、嚥下体操を行ってから、食事を楽めるよう支援している。また、自助具を利用して、利用者が自分で食べられるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の食事形態、制限、食事の種類等、職員で共有、実践を行っています。安全に食事が出来る様に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、残存能力を生かし、口腔ケアに取り組んでいます。		

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を促しながら、おむつ等極力使用しないように努めています。排泄のパターンを把握し、状況に応じて声掛けや、自立の支援に努めています。	日々の排泄状況を記録して排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行っている。トイレにパッド類は置かず、居室や保管場所で管理している。また、便秘予防として、体操を行ったり、定期的な柔道整復師の指導やマッサージ等で自然排便を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談をしながら薬を服用したり、運動、マッサージをして排便がスムーズにできるように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の意向を聞き、入浴日を決定しています。可能な限り利用者の意向を聞き、入浴形態も考慮しながら支援に努めています。	利用者の意向や体調により、柔軟に入浴日の変更ができる。好みの入浴剤を利用して、リラックスできる工夫もしている。浴槽のまたぎが出来ない利用者も、機械浴でゆっくり湯船につかって入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活パターンに合わせ、自然に睡眠がとれる様支援している。室内の温度調整・湿度等毎回意識して行き、快適に睡眠がとれるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報に確認し薬の副作用、用法容量の把握に努めている。医師と相談し、症状の変化には十分確認するように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様に役割を持って頂き、毎日取り組んで頂いています。定期的にボランティアさんをお呼びし、楽しんで頂ける様な工夫をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に散歩や、買い物に出掛けています。ご家族様に協力をして頂きながら外出できるよう支援しています。	定期的に近所を散歩したり、買い物に出かけて地域の人と挨拶を交わしている。天気の良い時には、外気浴を兼ねてベランダでティータイムを楽しんでいる。家族の協力で外出する時は、利用者の最近の様子を伝え、楽しい時間となるよう送り出している。	

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設が金銭(預り金)に関しては管理していますが、買い物時には支払いは入居者様にて行ってもらうように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望があるときには電話を掛けたり取り次いだりしています。手紙を出したいという時も便箋等を用意し支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて飾りつけをしたり、入居者様に手伝って頂いたりしています。不快を招かない様、過度に物を置いたり、整頓をして居心地よく過ごして頂く工夫をしています。	共用スペースは整理整頓され、掃除も行き届いている。食堂兼居間は歩行訓練ができる広さがあり、歩き疲れたらソファと椅子等、好きな場所で休める環境である。壁には利用者の作品を掲示し、ベランダや玄関ポーチにはプランターを並べ、利用者が成長を楽しみながら様々な花や野菜等の世話をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様やご家族の要望に沿って環境作りを行っています。ベットや家具等の配置も趣向に合わせています。入居者様がどこでも穏やかに過ごせる環境作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様・家族と話し合いながら居室作りを行っています。ご自宅で使用していた家具や備品を持ってきていただき、落ち着いて過ごして頂けるよう努めています。	居室には、利用者が自宅で使い慣れていた家具や備品を持ち込むことができ、家族の協力を得て、使いやすく安全に配置している。居室の整理整頓や衛生管理は、残存能力の維持のために、できることは本人に任せ、職員はさりげなく手伝いながら、居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存機能を活かし、機能訓練も行うことでADLの維持・低下防止に努めています。過剰な介護は行わず、自立支援に基づいた支援に努めています。		